

かやぶき民家見学について（引率の先生方へ）

必ず

見学前に、次のことを子どもたちへお伝えください。

- ① 民家内の昔の道具は、今は作られていない「貴重なもの」がたくさんあります。
大切に、丁寧に扱ってください。
(わらでできた道具や、木でできた道具があり、中には壊れやすいものもあります。)
- ② 民家の中では、走らないでください。
(他の児童にぶつかったり、ケガをしてしまう恐れもあります。)
- ③ いろりの周りでは、ふざけないで下さい。
(いろりに火がついていることがあります。やけどをしないように注意してください。)
- ④ 階段は、昔の急なつくりになっています。手すりを持って上り下りして下さい
(階段は狭いため、一方通行でお願いします。階段下に先生がついていると安心です。)
- ⑤ 二階に上がったら、静かに歩いてください。走ったりとびはねたりしないで
ください。(2階の床は、たった1枚の木の板でできています。)

**下の内容は、かやぶき民家についての説明です。
(必要に応じて、子どもたちへお伝えください。)**

① 建築について

・ 建てられた時期

かやぶき民家は、明治3年～7年（1870年～1874年）、今から約150年くらい前に建てられました。

・ 建て方

山から木を切り出し柱を組み合わせ、わらを練り込んで粘土で壁を塗り、すすきなどの萱を屋根にのせて建てました。たくさんの大工さんが頑張って建てましたが、できあがるまでに5年もかかったそうです。(現在は3ヶ月くらいで建ちます)

② 赤城型民家の特徴について

・ 切り落としの屋根

かやぶきの屋根を見てください。真ん中が切り落とされて、二階の窓がついていますね。このような形を赤城型民家といいます。(民家の後ろにある山が赤城山です。赤城山の南面に昔からある養蚕農家の民家を赤城型民家といいます。)かやぶき民家の屋根は、養蚕といってカイコを飼う時に必要な「太陽の光」と「風」を二階に入れるためこのような形になりました。

・ うまや

かやぶき民家の中には馬がいます。馬は、畑や田んぼを耕したり、重い荷物を運ぶときに役に立ちました。昔の人は、馬と一緒に住み、馬を大切にしていたんですね。皆さんも馬をかわいがってあげましょう。(馬に乗って写真撮影もできます。)